

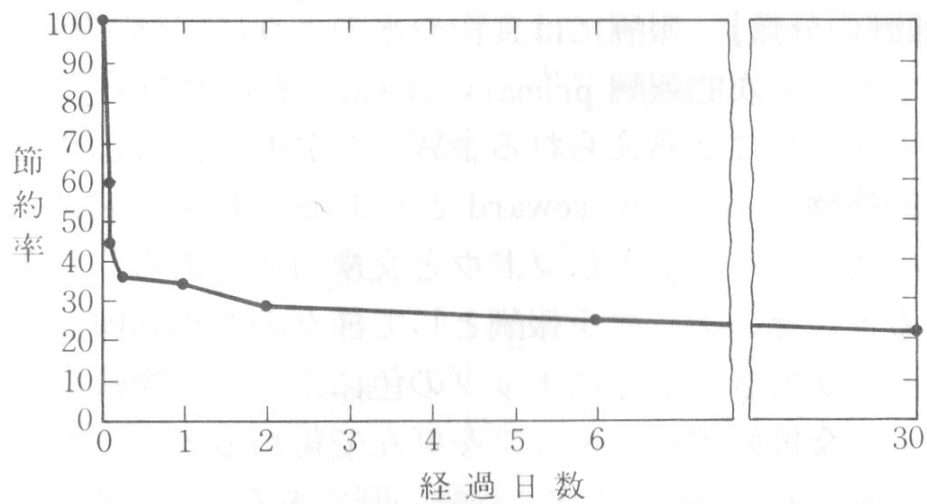
保健体育科教育領域

問題 1 以下の資料 1 と資料 2 を通読し、問 1 ～問 5 の問いに答えなさい。

（下線は設問の都合上ついています）

◎資料 1

著作権上の問題により掲載しておりません。



エビングハウスの保持曲線
(Ebbinghaus, 1885のデータによる)

（斎賀久敬 1981「忘却」新版心理学事典 平凡社 より引用）

◎資料 2

著作権上の問題により掲載しておりません。

(朝日新聞 「天声人語」 2024. 10. 16 より全文引用)

問 1 エビングハウスが忘却曲線を得た際に用いた実験材料はどんなものだったか書きなさい。

問 2 資料 2 二重線部「何とか思い出してみたいくなる」こととは、具体的にどんなことか書きなさい。

問 3 資料 1 下線部の記述をふまえ、資料 2 の内容を批判しなさい。

◎保健体育科教育で目標としたことがらに関する生徒の記憶が、エビングハウスの忘却曲線と同様の忘却経過をたどったとします。

問 4 その原因はどんなことだと考えられますか。

問 5 教師が講じる対策として必要なことについて、あなたの考えを述べなさい。(いくつでも)

【出題の意図】

本問は、忘却曲線に関する基礎的知識を踏まえ、保健体育科教育における学習内容の定着や忘却について多面的に考察し、教師として必要な指導上の工夫を論理的に述べる力を評価することを目的としている。また、資料を読み取り、自らの考えを適切に表現できる資質を確認する意図がある。

【回答例】

- 問1 エビングハウスが忘却曲線を得た際に用いた実験材料はどんなものか書きなさい。
「無意味綴」または「意味のない造語のつづり」
(ZAT・XUP やヘテ・ニミのような具体例がなくても可)
- 問2 資料2 二重線部「何とか思い出してみたくなる」こととは、具体的にどんなことか書きなさい。
裏金や旧統一教会の問題・元総務相による行政文書の否定・法相が死刑について軽口をたたき、人権感覚の薄さに驚いたこと・防衛費の急増が深い議論もなしに決められたこと・「戦う覚悟」を元首相が説いたこと・原発の積極活用・「記憶にない」との言葉が出た問題
- 問3 資料1 下線部の記述をふまえ、資料2 の内容を批判しなさい。
無意味な記憶材料により得られたエビングハウスの保持曲線（忘却曲線）は、政治状況や事件等の内容という有意味材料にそのまま当てはめることはできない。したがって資料2 の主張が立脚しているように、私たちはほとんどの政治的出来事を忘れていとは限らない。
- 問4 その原因はどんなことだと考えられますか。
エビングハウスが用いた無意味綴と同様に意味のないものとして記憶させたため・他の知識経験との関連がついていないため。
- 問5 教師が講じる対策として必要なことについて、あなたの考えを述べなさい（いくつでも）。
「事典」の下線部以降の部分に言及している（有意味・自我関与・意図的学習・情動性が高い・快感情が伴っている・学習程度・分散学習か集中学習か など）

スポーツコーチング

問題 1 以下の A と B の問題の中からそれぞれ 1 つ選んで解答用紙に論述しなさい。
解答用紙には、選択した問題がわかるよう□に数字の記入をしなさい。

A

- 問 A－1 100 m 短距離走で平凡な記録（11.8 秒）をもつ高校生選手がおり、日頃から記録を改善したいと考えている。あなたがその選手のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。
- 問 A－2 野球で短打のヒットはよく打つことができるが、ホームランを打ちたいと思っている野球少年がいる。あなたがその少年のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。

B

- 問 B－1 ソフトボールを本格的に始めた少女がいる。その少女は投手の投げたボールに振り遅れて三振することが多く、どうしたらよいか悩んでいる。あなたがその少女のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。
- 問 B－2 前方かかえ込み宙返り（膝を胸に引きつけ両手をすねあたりで抱える）の習得に励んでいる飛び込み選手がいる。彼女は、試合の演技において、同宙返りから伸身姿勢を取って入水するが、背中側から着水してしまい失敗することが多いため悩んでいる。あなたがその選手のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。

論述問題における採点基準

■論述問題の採点基準（目的、評価ほか）

出題の目的 （意図）	被指導者が直面する問題の解決に当たって関連する専門基礎科学領域（体育・スポーツ系大学学部）の知識・知見（原理原則、公式など）を適切に用いて客観的・論理的に思考（指導）できる能力（問題解決能力）を評価する。
評価能力	問題理解力（読解力）、構成力、発想力、表現力
評価項目	下記①～⑧の項目を基準に得点化 論理的思考力（論理展開力、説得力、分析力、一貫性）、②専門基礎科学領域（体育系学部）の知識・知見の理解度・習得度（客観性、信憑性）、③パラグラフライティング（構成、トピックセンテンス、可読性）、④分量、⑤文体（常体）、⑥語彙力（漢字の正確さ含む）、⑦句読点、⑧誤字・脱字など。 付記：①から③は加対象、④から⑧は減対象項目である。
論述の解答例	① スポーツバイオメカニクス（専門領域）の解答例（専門性が高い具体的解答例） いずれの問題も学部のスポーツバイオメカニクス関連科目で出題される応用問題であり、（受験生に解答が期待される）同領域の専門的知識の解答例 ② 一般的な解答例（抽象的解答例）
備考 （配点目安）	スポーツバイオメカニクス解答例の記述量（専門知識・用語）に応じて加点する。

【論述の解答例：スポーツバイメカニクス】

以下の A と B の問題の中からそれぞれ 1 つ選んで解答用紙に論述しなさい。

A

問A-1 100 m 短距離走で平凡な記録（11.8 秒）をもつ高校生選手がおり、日頃から記録を改善したいと考えている。あなたがその選手のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスを
するか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。

【論述の解答例：スポーツバイメカニクス】

走スピードは、式 [1] から、ストライド長とピッチを乗じたものである。

$$\text{走スピード [m/s]} = \text{ストライド長 [m]} \times \text{ピッチ (回転数) [1/s]} \quad [1]$$

したがって、走スピードを大きくする（＝記録の向上）ためには、ストライドとピッチの双方を大きく
する必要がある。

走者の走スピード曲線に基づく、一般に 100 m の走局面（全局面）は、【スタート局面（0 m）】、【加
速局面（0-約 30 m）】、【等速度局面（約 30-約 80 m）】、【減速局面（約 80-100 m）】の 4 つに分割で
きる。これらの局面では、ストライドとピッチの比率が異なるため、各局面で異なる課題がある。この
ことを踏まえたうえで、選手にアドバイスする必要がある。

総論（原則）

【全局面】の課題：水平移動運動であるため、支持足で地面を後方へ蹴って、前方への反力を最大化す
ること。そのために、支持足において、ブレーキ力（負の力積）を小さく、推進力（正の力積）を大き
くすること。具体的には、アクティブ・ランディング（Active landing 前脚の積極的着地）の使用：前脚
の振り戻し速度と地面との相対速度を出来る限り小さくする→支持足接地時のブレーキ力（後方地面
反力）減少に寄与

アドバイスとして、前方への反力を最大化するための個別事項：

- ① 支持脚（後ろ脚）の力強い伸展→推進力（前方地面反力）増大
- ② 非支持足（振り出し脚）の力強い“前方へのリフティング”（“前方へのもも上げ”→作用反作用利用）
→推進力増大
- ③ 力強い腕の振り→下肢への角運動量の伝達（脚の振り速度増）と推進力増大
- ④ 跳ばない→空中局面時間を抑え（空気抵抗力減）、推進局面時間を長くする（力積増大）
- ⑤ リラックス→力まず、可動域を大きくした四肢のスムーズな振りの実現

各論（各局面）

【スタート局面（0 m）】の課題：両腕の力強い振り（→前方地面反力の増大）とともに、スターティング
ブロックを両足で後方へ出来る限り強く蹴り、前方への推進力を得て脱出速度を最大化する。

【加速局面（0-約 30 m）】の課題：静止状態（0 m/s）からスタートし、できるだけ早い時間で最大疾走スピードに達すること。アドバイスとして、ストライドとピッチ（回転数）を大きくすること。体幹の前傾を保ち、前足の着地位置を身体重心下ないし後方にする（ブレーキ力抑制）。

【等速度局面（約 30-約 80 m）】の課題：最大疾走スピードをゴールまで維持する。このために、ストライドとピッチの双方を高いレベルで維持すること。アドバイスとして、左右の腕と脚の振りを反対称で交互に強くかつ滑らかに動かすことを維持する（腕⇄脚の角運動量・力学的エネルギー伝達の効率化） 必要があるため、体幹の姿勢を一定に保持しぶれないようにする。

【減速局面（約 80-100 m）】の課題：疲労により、最大疾走スピードを維持するのが困難になるが、それを可能な限り抑えること。アドバイスとして、ストライドの増大、ピッチの減少を抑制する。高く跳ばないようにし、ピッチを持続すること、キック脚が後方へ“流れず”（遅れず）、素早く前方へ振り出すことを勧める。

問A-2 野球で短打のヒットはよく打つことができるが、ホームランを打ちたいと思っている野球少年がいる。あなたがその少年のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。

【論述の解答例：スポーツバイメカニクス】

力学の原則【補足】から、長打力を改善するためには、①長いバットを長く持つこと、②体幹の捻転速度（角速度）を大きくすること。アドバイスとして、

- ①構えの位置：外角コースギリギリのボールをバットの打撃中心で打つことができる範囲内でホームベースから離れて立ち構える→ r の最大化のための前提条件
- ②バットーボールインパクト時に両腕（特に引き腕）の最大限の伸展→ r の最大化
- ③腕力の増強→長いバット（慣性モーメント大）を振り回すことができるようにするため
- ④体幹の捻転筋力の増強→ ω の増速

【補足】

ある軸回りに回転している物体の任意の点の速度（ V ）は、物体の角速度（ ω ）と回転軸からその任意の点までの距離（ r ）を乗じることによって求められる（式 [1]）。

$$V = \omega \times r \quad [1]$$

ここで、 V ：バットヘッド速度[m/s]、 ω ：身体の捻転角速度[rad/s]、 r ：身体の回転軸からバットのヘッド点（打撃中心点）までの距離[m]

B

問題B-1 ソフトボールを本格的に始めた少女がいる。その少女の打者は投手の投げたボールに振り遅れて三振することが多く、どうしたらよいか悩んでいる。あなたがその少女のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。

い。

【論述の解答例：スポーツバイオメカニクス】

バットの振り遅れが生じる主な原因として、バットを振る速さ（スイングスピード）が小さい可能性が高い。スイングスピードを大きくするには、バットの「回しにくさ」を表す慣性モーメントが関わっている。具体的には、バットを握った箇所の慣性モーメント（グリップ点回りの慣性モーメント）は、式 [1] から求められる（平行軸の定理）。

$$I_{\text{grip}} = I_{\text{CG}} - md^2 \quad [1]$$

ここで、 I_{grip} ：バットグリップ点回りの慣性モーメント [kg m^2]、 I_{CG} ：バット重心点回りの慣性モーメント [kg m^2]、 m ：バット質量 [kg]、 d ：バットグリップ点から重心点までの距離 [m]

式 [1] によると、振り遅れる力学的要因は以下である。

- ① I_{grip} が大きい
- ② I_{CG} が大きい
- ③ m が大きい
- ④ d が長い

このうち、②③はバット固有の物理特性であり、彼女の個人バットを使用しているため変えられない。したがって、①を小さくする必要がある。①を小さくするとは、④の d を小さくすることと同じ。よって、バットのグリップ下端でバットを持つ（つまり長く持つ）のではなく、ヘッドに近い方のグリップ位置でバットを持つ（短くもつ）と、④（＝①）を小さくでき、バットを振り回しやすくなる。→ 結果、スイングスピード増大

アドバイスとして、

- ① まず彼女がバットを長く持っているか否かを確認し、長く持ってバットを振っている場合はバットを短く持つよう指導することで、彼女のスイングスピードが速くなり、バットにボールが当たる確率が高くなると考えられる。
- ② ①によって改善されない場合（つまりはじめから短く持っている）、そもそも彼女は体幹の捻転筋力や腕力などが弱くバットを速く振ることができない可能性があるため、素振りや筋力トレーニングを勧めて体力（筋力）の増強を図ることを勧める。

問題B-2 前方かかえ込み宙返り（膝を胸に引きつけ両手をすねあたりで抱える）の習得に励んでいる飛び込み選手がいる。彼女は、試合の演技において、同宙返りから伸身姿勢を取って入水するが、背中側から着水してしまい失敗することが多いため悩んでいる。あなたがその選手のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。

【論述の解答例：スポーツバイオメカニクス】

飛び板（ダイビングボード）から離れてから入水するまで、通常、選手は一定の技術的手順を踏んで身体形状と回転スピードを変化させている（慣性モーメントと角速度の双方の適切な調整）ため、空中局面のごく限られた短い時間（10 m飛び込みの場合：約 1.4 秒）でこれらの変量を調整するのは極めて難しいと考えられる。よって、

- ① まず、空中に飛び出す前に「踏切中に得たトルク（角力積）を増加させる」ことにより、ダイビン

グボードから離れた後の身体の角運動量の大きさを増加させると(※)、入水時の回転不足を防ぎ、頭から入水することができる可能性が高い。アドバイスとして、彼女にダイビングボードをいつもより強く蹴ることを勧める（【詳説】参照）。

※「角力積は角運動量の変化に等しい」($N\Delta t = I\omega_2 - I\omega_1$) ことを表す関係式（角力積—角運動量の関係則）に基づく。

【詳説】ダイビングボードから飛び上がる前の角力積を大きくさせる方法は2つある：①モーメントアーム（身体重心からボード反力の作用線への垂直距離）の大きさを変えずにボード反力を大きくする方法、②ボード反力の大きさを変えずにモーメントアームを大きくする方法。①の方法は角力積の大きさだけでなく、跳躍高も大きくする（つまり入水までの時間を長くする）ことができるため、②の方法よりも推奨される。

- ② ①により改善されない場合は、空中局面の両脚のかかえ込み（“身体の丸み”）を強めて身体の左右軸回りの慣性モーメントをさらに小さくして、回転スピードを上げることを勧める。

【論述の解答例：一般】

以下の A と B の問題の中からそれぞれ 1 つ選んで解答用紙に論述しなさい。

A

問A-1 100 m 短距離走で平凡な記録（11.8 秒）をもつ高校生選手がおり、日頃から記録を改善したいと考えている。あなたがその選手のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。

【論述の解答例：一般】

《アドバイス》

1. スタート技術の改善（反応と初動の強化）

- スタートダッシュの練習を重点的に行い、爆発的な加速力を高める。
- スターティングブロックの使い方、姿勢、反応速度のトレーニングを行う。

2. 筋力とパワーの向上

- 特にハムストリングス、大臀筋、大腿四頭筋などの下半身の筋力トレーニングを強化する。
- ウェイトトレーニングやプライオメトリクス（ジャンプ系トレーニング）を取り入れる。

3. フォームの最適化

- 腕振り、ストライド（歩幅）、ピッチ（歩数）を見直す。
- 映像を使ってフォームをチェックし、無駄な動きを減らす。

4. 加速フェーズとトップスピードの練習

- 30m、60m ダッシュなど短い距離で加速力を磨く練習を取り入れる。
- トップスピードを維持する走り方を練習する。

5. 柔軟性と可動域の向上

- ストレッチや動的ウォームアップを日常的に取り入れて、怪我予防とスムーズな動きを確保する。

6. 栄養管理と休養の徹底

- 筋力とパフォーマンスを向上させるために、たんぱく質や炭水化物の摂取バランスを整える。
- 睡眠や休息も含めて、リカバリーを大切にする。

《理由（根拠）》

- 短距離走では「スタート」「加速」「等速」「減速」の各局面がそれぞれ重要であり、どこか 1 つでも改善すれば記録は向上する。
- スタートのわずかな改善でも、0.1～0.2 秒の短縮は可能であり、疾走フォームや筋力の向上と組み合わせれば 1 秒近い伸びも現実的であろう。
- 11.8 秒という記録は、技術・筋力・戦術面の基礎をしっかりと積むことで、十分に縮める余地があるレベルであることを伝えて自信を持たせる。
- 高校生はまだ成長過程にあり、トレーニングや生活習慣の見直しで大きな変化が見込める。

問A-2 野球で短打のヒットはよく打つことができるが、ホームランを打ちたいと思っている野球少年がいる。あなたがその少年のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。

【論述の解答例：一般】

《アドバイス》

1. 下半身主導のスイングを身につける

- スイングの際、腕の力だけでなく、股関節の回転や足の踏み込みによって力を生み出すように指導する。
- ティーバッティングや素振りで「腰から回す感覚」を養う。

2. スイングスピードの強化

- バットスピードを高めることで、ボールにより大きなエネルギーを伝えられる。
- 素振り、バットの重さを変えたトレーニング、プライオメトリクス（瞬発系トレーニング）を取り入れる。

3. 筋力トレーニング（特に体幹・下半身）

- パワーの源となる下半身や体幹（腹筋・背筋）を強化する。
- スクワットやデッドリフト、メディシンボールを使ったトレーニングが効果的である。

4. 打球角度の意識を持つ

- ホームランには適切な打球角度（アッパースイング気味のスイング軌道※）が必要である。
- ボールの下部を捉える意識を持たせ、フライ性の打球を打つ練習をする。ただし、極端になりすぎないように注意する。

5. ストライクゾーンの中で長打が狙える球を選ぶ

- 全ての球を強振しようとせず、自分が長打を打てるコースや高さの球を選んでスイングする判断力を養う。

《理由（根拠）》

- ホームランを打つには、「パワー」＋「スイングスピード」＋「適切な打球角度※」の3つが必要不可欠である。
- 短打を打てているということはバットコントロールやミート力は既にあるため、それをベースに「飛ばす技術」を加えることでホームランは狙える。
- 少年期はまだ発育段階だが、正しいトレーニングや打撃フォームの改善によって、筋力や打球の飛距離は大きく伸びる時期である。
- やみくもに強振するのではなく、スイングの効率性やタイミングを重視することで、体格に頼らないホームランも可能になる。

※「バレルゾーン」と呼ばれ、打球速度が約 158 km/h 以上で、打球角度が 26～30 度の範囲とされる。

まとめ

この少年には、「自分のミート力を土台に、パワーと打球角度を加えることでホームランは狙える」という希望を与えつつ、具体的なスキルと体づくりのアドバイスを行うことが効果的である。

B

問B-1 ソフトボールを本格的に始めた少女がいる。その少女の打者は投手の投げたボールに振り遅れて三振することが多く、どうしたらよいか悩んでいる。あなたがその少女のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。

【論述の解答例：一般】

《アドバイス》

1. スイングの始動を早くする

- ピッチャーの投球動作に合わせて、スイング準備（テイクバック）を早めに始めるようにする。
- 「投手がリリースする瞬間に体が動き出している」ことを意識する。

2. タイミングの取り方を練習する

- 素振りだけでなく、トスバッティングやマシンバッティングで実際に動くボールに合わせて打つ練習を増やす。
- 「足を上げる（ステップ）→踏み込む」のリズムを安定させる。

3. バットの軌道を短く・コンパクトにする

- 遠回りなスイングは振り遅れの原因になるため、最短距離でミートポイントに向かうスイングを意識する。
- 脇が開かないように指導し、フォームを修正する。

4. 軽めのバットで練習する

- バットが重いとスイングが遅くなりがちなので、軽めのバットを使ってスイングスピードを高める練習をする。
- 少しずつ通常のバットに戻すことで、スピードとフォームの両立を図る。

5. 「見る」意識を高める

- ボールをよく見て、「来るタイミングを感じる」練習をする。
- 手投げの練習や、ピッチングマシンで目を慣らす。

《理由（根拠）》

- 振り遅れは、バットスピードが遅い場合だけでなく、タイミングの取り方が遅れていることが多い。
- 特に初心者は、投手のモーションに反応するのが遅れやすく、「自分からリズムを作る」ことを教える必要がある。
- ソフトボールでは、投手と打者の距離が近く、野球よりも反応時間が短いため、スイング準備が早くないと振り遅れやすい。
- スイングの軌道が遠回りだったり、フォームが崩れていたりすると、いくらタイミングが合っても振り遅れることがある。
- 体が未発達な少女期には、無理な力任せではなく、効率的なフォームやリズムを教えることが、打撃向上への近道。

まとめ

この少女には、「振り遅れ＝才能がない」わけではなく、「技術とタイミングの問題だから必ず改善できる」と伝えることが大切である。その上で、具体的な練習方法や改善ポイントをわかりやすく指導することで、自信を持たせてあげる。

問B-2 前方かかえ込み宙返り（膝を胸に引きつけ両手をすねあたりで抱える）の習得に励んでいる

飛び込み選手がいる。彼女は、試合の演技において、同宙返りから伸身姿勢を取って入水するが、背中側から着水してしまい失敗することが多いため悩んでいる。あなたがその選手のコーチであるとしたら、どのようなアドバイスをするか。また、そのアドバイスの理由（根拠）について説明しなさい。

【論述の解答例：一般】

《アドバイス》

1. 「開き（ほどき）」のタイミングを修正する

- かかえ込みをほどく（開く）タイミングが早すぎるか、適切でない可能性があるため、空中姿勢を正確にコントロールする意識を持たせる。
- 練習では、仮想の入水角度（目標ライン）を意識させてほどく位置を体で覚える。

2. 空中での視線と頭の位置に注意させる

- 視線が上を向いたままだと、背中側からの入水になりやすい。
- 回転の後半では、視線を入水点に向け、頭を入水方向へ軽くうなずくようにすることで、体の軸をまっすぐに保ちやすくなる。

3. 空中姿勢の「縦軸の意識」を強める

- かかえ込みから開いたあと、体が反ってしまうと背中からの入水になりやすい。
- 「腹筋を使って体をまっすぐに締める（コアを意識する）」ことで、姿勢の崩れを防ぐ。

4. ビデオを使ってフォームチェック

- 空中での動作は感覚だけでは分かりにくいので、ビデオを使ってフォームを確認させる。
- 成功例と失敗例を比較し、「開いたタイミング」「視線の位置」「体の角度」の違いを自覚させる。

5. トランポリンや陸上での空中姿勢練習を併用する

- 飛び込み台ではなく、安全な環境（マットやトランポリン）で繰り返し空中の形を確認・修正する。
- 特に「ほどいたあとの姿勢」で静止できるようにすることで、体のコントロール力が向上する。

《理由（根拠）》

- 飛び込み競技においては、回転技から入水までの「タイミング」「姿勢制御」「視線の使い方」が成否を大きく左右する。
- この選手が「背中から入水する」＝体が起き上がりきっていない、もしくは反っている状態であることが考えられる。
- かかえ込みからの開きが早すぎると、十分に回転が完了する前に体を伸ばしてしまい、結果として入水角度が浅くなり、背中で入ることにつながる。
- 空中での頭や視線の位置は体のバランスと軸に直結するため、適切な意識づけが必要。
- 飛び込みは一瞬の競技であるため、感覚ではなく映像など客観的なフィードバックを活用して修正点を明確化することが、習得の近道となる。

まとめ

この選手には、「あなたの技術が足りないのではなく、空中での“タイミング”と“姿勢の微調整”がポイントである」ことを丁寧に伝え、焦らずに反復練習できる環境と指導を整えることが重要である。

運動・スポーツ栄養学領域

問題1 「運動・スポーツ栄養学領域」のこれまでの社会的貢献について、自己の見解を述べなさい。
(文字数の指定はありません)。

【出題の意図】

本問は、運動・スポーツ栄養学に関する基礎的知識を踏まえ、その社会的役割や貢献について多面的に考察し、自らの見解を論理的に表現する力を評価することを目的としている。また、健康・スポーツ分野における栄養指導への関心や、専門的に学ぶ意欲を確認する意図がある。

【回答例】

問題 1

〔採点基準〕

専門領域担当者の立場を重んじ、採点者の裁量を尊重した採点を行う。

100 点：文字数、内容ともに、とても充実している。

75 点：文字数、内容ともに、ある程度充実している。

50 点：文字数、内容のどちらかが、充実している。

25 点：文字数、内容のどちらとも、充実していないが、少しは書けている。

0 点：上記のいずれにも該当しない。

※上記の基準はあくまでも目安に過ぎず、上記の基準に当てはめることが困難な回答に直面した場合は、全て採点者の裁量に委ね、採点を行うものとする。

現代武道

問題 1 以下の 2 つの問いについて、それぞれ解答を論述しなさい。

問 1 日本の現代武道の種目を挙げなさい。さらに、武道とスポーツの違いについて柔道と剣道の現状を例にして述べなさい。

問 2 警察官採用試験において武道実技による採用枠が設けられていることに鑑み、武道が公務において重要視される理由と、武道を公務へ応用する際に留意すべき法的側面と実技特性の側面について、あなたの考えを述べなさい。

【出題の意図】

本問は、現代武道に関する基礎的知識を踏まえ、武道とスポーツの違いや、武道の社会的役割について論理的に考察する力を評価することを目的としている。また、武道を安全教育や公務と関連付けて捉え、専門的知識をもとに自らの考えを適切に表現できる資質を確認する意図がある。

【回答例】

問 1

現代武道は、柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・薙刀・合気道・少林寺拳法・銃剣道の 9 種目である。

武道とスポーツの違いについて

●武道の定義（日本武道協議会制定）

武道は、武士道の伝統に由来する日本で体系化された武技の修錬による心技一如の運動文化で、心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、人間形成の道であり、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道の総称を言う。

●スポーツの定義（スポーツ基本法）

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動。

問 2

歴史的背景

明治 10 年の西南の役において警視庁抜刀隊の存在が警察に剣道が採用される発端となった。明治 12 年には警視庁に武術世話係が置かれ、新設された巡査教習所には武道場が設置された。柔道は明治 16 年に採用されているが、武道の中で剣術の代表格が剣道、素手武道の代表格が柔道として、現在も二大武道として警察官の訓練において重要視されている。

体力及び精神力の向上

武道の稽古を通じて警察官として必要とされる体力及び精神力を向上させる効果が期待されている。筋力や持久力の強化のみならず、瞬発力や体幹バランスを向上させることもできる。精神面では、武器等を所持する被疑者と対峙する際に、怯まずに不審者と正対して的確に制圧術等の技を実行できるよう、平常心を維持するための訓練として有効である。

棒・杖術及び制圧術への応用

剣道は主に警棒と警杖の操法として応用されている。また、柔道は主に被疑者を制圧する際の術として応用されている。被疑者との距離が概ね 3 メートル以上ある場合は、警棒または警杖を使用するが、3 メートル未満で警棒の両手突きが困難である場合は、素手（徒手）で被疑者を制圧することから、武道有段者は警察官採用試験において有利になる。

法的側面

警察官が被疑者を逮捕する際に、被疑者からの攻撃から身を守るために反撃する場合、違法性阻却

事由（通常であれば違法である行為が違法にならないような特別の事情）とみなされる。具体的には、正当業務行為（刑法 35 条）、正当防衛（刑法 36 条 1 項）、緊急避難（刑法 37 条 1 項）がある。例えば、暴れている被疑者に対して警察官が拳銃を発射する行為は正当業務行為であり、急迫性等が高いと認められる場合は正当防衛となる。

一方で、上記例において急迫性等が高いと認められない場合は過剰防衛となり、警察官の行為が違法性を帯びる可能性がある。例えば、被疑者を必要以上に折檻するなどした場合は、特別公務員暴行陵虐罪（刑法 195 条）もしくは業務上過失致死傷罪（刑法 211 条）が適用される可能性があることから、棒・杖術及び制圧術を行使する際は留意が必要となる。

実技特性の側面

剣道には上段打ちがある一方で、警察官の棒・杖術には上段打ちがない。その理由として、上段打ちは主に面（頭部）を打つことを目的とする剣術であるのに対し、警棒または警杖で頭部を打つと過剰防衛になる可能性が高いため、警察実技では上段打ちを行わないのが通例となっている。また、上段打ちは手を高く振り上げる動作を伴うため、被疑者と対峙した際に隙が生じ、警察官の脚や胴を狙撃される可能性が高まることから、上段打ちは形勢不利となる。柔道を応用した制圧術においても、被疑者に頭部外傷を与える可能性が高い投げ技や、被疑者を長時間の窒息や失神状態に陥らせる可能性が高い締め技などは、実務上不適切と考えられている。以上のように、武道の技の危険性を認識し、安全性を確保することに留意する必要がある。